



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2013年3月 NO. 28



雪の台峯

新しい里山景観のために

目次

■台峯と私・巻頭言	2	■都市計画道路を歩いてみました	8
■「会員の集い」とその後の報告	3	■台峯・点描	10
■活動記録	5	■台峯の周辺—歴史つれづれ—⑥	11
■最近の保全作業とモニタリング調査	6	■台峯のこの頃	12

台峯と私 ―真の保全を―

なだ いなだ

―台峯の保全が決まり安心して歩かなくなったせいで、すっかり足が弱ってしまった。天罰観面で、もう少し頑張っておけば足腰がもっと強くなっていたはずのものを。坂道や階段がきつくなって困ります。

―ただ保全できればこれで良いと思ったが、しかしそのあと色々と苦労があるのだなということ、今日の久保さんや望月眞樹さんの話を聞きながら感じます。台峯は我々が守ったぞと誇りをもって子孫に言えることのひとつのつもりだったけれど、まだまだ大変な苦労が残っているのだなと思い、「ご苦労様」の気持ちで一杯です。

―台峯の湿地を歩いて見上げたハンノキを時々思い出し、樹はうらやましいなと思うことがあります。樹は歳をとるとだんだん風格がでるが、我々人間は足も頭も弱くなり、だんだんみすぼらしくなってきます。ハンノキも70年ぐらいが寿命らしいが、私も80歳を過ぎて寿命なのだと感じます。

―これから里山をどうするか？里山という固定した考え方はない。その時々々の常識で考えるとして、指導してくれる深い考えのある人に従って常識を深めながら、その常識の基いて判断すべきでしょう。

―私の心の支えだったハンノキも伸びすぎて日陰に植物が生えない、なんて言われショックです。しかし、我々が何とか遺した自然を大切に思って、今後生きていこうと思っています。

―トンネルなど掘られて誇りに思えない形

になってしまったら大変です。今後、若い人に頑張っていたいただきたいと思います。

(昨年11月23日の「会員の集い」でのスピーチから、編集担当の責任でその一部を文章化し、表題をつけました。全体の流れはP.3~をご参照の程)

巻 頭 言

出口克浩

鎌倉に残る大切な緑地、倉久保の谷戸(台峯)――平成16年、なだいなだ先生をリーダーに仰いだ長期にわたるトラスト運動が結実し、野村不動産による宅地造成計画を阻止、鎌倉市による当緑地の買取り保全が決定されました。

買取り方法が各年度の分割のため、全面買取り終了後の供用(一般公開予定は平成29年4月)に向け、いよいよ今年は「実施設計」が作成されます。それに伴う具体的な内訳として保全作業内容の案が今月中には出来上がる旨、前回の保全連絡会において説明が有りました。平成27年にはこの実施設計を基に整備工事が開始される予定です。

ご周知の通り一連の事項は台峯「基本計画」やこれに続く「基本設計」に基き実施されるもので、全国に先駆けた誇り高い内訳であると思います。この3月で「歩く会」は173回となり、「山の手入れ」やモニタリング(マップ作り)も併せ、生きた自然から学んだ事項、実測データの積重ねを、当基本設計の実施に活かすべく推進して行きたいと思っています。

“台峯は大切な自然の宝物”として、会員の皆様とともに守っていく所存です。

「会員の集い」とその後の報告



<お集まりいただいた会員の皆様>

第14回の「集い」が昨年11月23日午後1時半から曇り空のもと光照寺にて約30名の会員・理事により開催されました。

まず、出口理事長が挨拶し、当「基金」への諸氏、諸団体のご協力に対する謝辞と、それぞれ百数十回を記録する「歩く会」や「山の手入れ」は今や「基金」の財産となり今後の活動の礎である旨を述べました。



<挨拶される前田代表と出口理事長>

次に来賓として「みどりショツプの会」代表の前田陽子さんがご挨拶され、山歩き

に同行して「基金」への寄付が活きていることを実感したとのお言葉を頂きました。

続いて久保理事が、5年後の2017年開園に向けた「台峯緑地の維持管理基本方針」についてご説明しました。

まず現状として、斜面の樹木の生育によるオギ原(湿原)の日照不足が問題となっていること、オギ原の衰退をとめるためにカナムグラ、ササの除去を行っていること、また谷戸の池の水質悪化は土砂、有機物の堆積が原因であること、沈砂池の改善、畦の復元、池の水抜き等抜本的な解決策が必要な状況であること、などなど。

こうした一連の作業開始にあたり鎌倉市、台峯保全連絡会との話し合いが続けられてきたが、「基金」としては現地の恒久的なモニタリング、すなわち自然を観察しながら台峯の現状を把握していくことが基本であり、その成果を踏まえて体力のない人でも参加できる程度の手作業を中心とした維持管理を実施していく意向を表明しました。



<理事長と久保理事>

次いで、望月眞樹理事から「都市計画道路」について、重要な情報を公にしない

官僚体質の例に洩れず、多くの市民が知らぬ間に「見直し作業」が行われているとの指摘がありました。この道路は1956年都市計画道路として認定されましたが、2002年国土交通省は土地有効活用の観点から都道府県に対し「見直し」指示をしています。鎌倉市はこの指示を受け2007年から「見直し作業」に入ったわけですが、その目的は本来都市計画道路としての必要性の無い道路については「都市計画道路」の枠を取り外そうとするものでした。ところが由比ヶ浜関谷線は「都市計画道路」として残される恐れがある、とのことでした。



＜熱弁を揮う望月眞樹理事＞

台峯の散策路を含め鎌倉市を南北に横断する、幅9メートル道路の由比ヶ浜関谷線が建設された際には市民生活に多大な影響を及ぼすことが予想されます。この道路計画が再浮上した理由としては、先の東北大震災に伴う住民避難路の確保、鎌倉市の道路渋滞の解消等が挙げられます。そうした事情を受けて鎌倉市の都市計画見直し作業が開始された、との背景説明がなされました。

いよいよ、「集い」に2年ぶりにお越しい



＜ユーモア溢れる なたさんのお話＞

ただいた、なたさんのお話です。

大学や老人ホームによる外債投資の危険性、台峯保全の行く末への心配、ご自身の数々の失敗談を披露され、会場の爆笑を誘いました。また常識(コモンセンス)について日本では良識と常識が混同され広められた、なたさんは医師としての経験を踏まえ、患者さんに対しては頭ごなしに「偏見を捨てよ」と言うよりも「あなたの古い常識をちょっと変更してよ」と求めたほうが効果的であった、常識とはその時代時代が変わるもので偏見とは古い時代の常識ではないのか、との見解を示されました。

フリートークに入り、手入れすべき場所が多いのに現状では作業時間が不十分なのでもっと長くすべき、との会員からの現場の意見に対し、久保理事が答弁しました。その上で「基金」としては提案された趣旨につき今後理事会で検討することを約束しました。ここでの久保理事の答弁内容は後記の後日理事会での結論と同様です。

また、「都市計画道路」について、「基金」も積極的に反対活動を行うべきではないか、またこの計画に対して代案を用意して

いるのか、との発言に対して、今のところ反対の行動はとっていない、当面事態の推移を見守るが仮に代案を提出すれば計画自体に賛成したことになるおそれもあるとの答弁がなされました。いずれにせよ、「基金」だけの問題ではなく鎌倉市民生活全体に及ぶ計画なので、鎌倉市の「交通体系」全体の中で考えていく必要があり、「基金」として今後どこまで関わるのか理事会で検討することとしました。

以上をもって、午後 3 時 40 分に閉会しました。

なお、1 月 31 日に開催された都市計画審議会で由比ヶ浜関谷線は『保留』となった。市は、これは最終結論ではなく、今後「鎌倉市都市マスタープラン」「交通マスタープラン」の改定時期などに合わせ広く市民の意見を聞いて行きたいとしている。(望月眞樹理事の傍聴による)

上記二点につき、2 月 3 日の理事会で正式に「基金」の方針として理事全員で了承した。

以上

—「集い」での会員からの意見に対する理事会による結論・回答—

1. 台峯の「手入れ」の作業時間を増やすべきとの意見に対して

現在は供用開始前の試行作業を行っている段階で、保全作業ではない。「基金」としてはモニタリングを中心に台峯の自然を観察し、その為の人材を育成すべきで、作業の本格化は供用開始後に行いたい。

2. 由比ヶ浜関谷線に伴う道路建設に対して「基金」も積極的に反対活動を行うべきだ、との意見に対して

現在ようやく都市計画道路「由比ヶ浜関谷線」の見直しの内容が少しずつ明らかになってきている状態である。したがって現時点では反対活動を進める状況では無いと思われる。

活 動 記 録
(2012年10月～2013年2月)

1 会員の集い	11/23
2 理事会	10/7, 11/4, 12/2, 1/13, 2/3, 3/3
3 歩く会	10/21, 11/18, 12/ 16, 1/20, 2/17
4 山の手入れ	10/20, 11/17, 12/ 15, 1/19, 2/16
5 モニタリング	10/20, 11/17, 12/2, 12/15, 1/29, 2/3, 2/12, 2/16, 2/26
6 台峯保全連絡会	10/31, 11/28, 1/ 11, 1/30, 2/20
7 市との現地視察	10/26, 11/22, 12/ 21, 1/17, 2/28
8 都市計画審議会傍聴	1/31
9 カレンダー発行	10/末

.....

《新しい里山景観のために》

(最近の保全作業とモニタリング調査)

.....

台峯が里山として手入れをされなくなって、40～50年ほど経つようです。この間、田畑や雑木林が荒れ、昔の里山にはほとんど見られなかった景観が生まれました。

これらを手入れして昔の里山の姿に近づけるのが理想ですが、中にはそのまま存続したい景観もあります。例えば田んぼの跡地に生えたハンノキ(榛の木)の林、オギ(荻)の群落、ハンゲショウ(半夏生)の生える湿地などです。

新しい里山景観をどのように保全すれば良いのか、試行錯誤の作業とモニタリング調査を始めています。今回はオギ原の紹介をします。



秋のオギ原

●オギ原の手入れとカヤネズミ

○オギとは？

オギ(荻)はススキとそっくりですが、ス

スキより湿った休耕田のような場所に群生します。「荻窪」などの地名がありますが、台峯緑地でも谷底にあるススキのような植物は、ほとんどがオギです。秋 10～11月頃、オギの穂が銀の波のようにそよぐ様子が見事です。

○カヤネズミとは

手のひらより小さい日本最少のネズミで、イネやススキ、オギなどに巣を作ります。

田んぼやススキが少なくなり、神奈川県では数少ない貴重な生物とされています。鎌倉市内でも減少が著しく絶滅の心配があります。台峯緑地のオギ原は、毎年確実に巣が見つかる数少ない安定した生息地となっているようです。



カヤネズミの巣

○オギ原の保全の試行

オギが群生している湿地(田んぼの跡地)が次第に乾き、オギからササへ変わりつつあります。加えてカナムグラというツル植物がオギにからみつき弱らせます。湿地の乾燥化対策が必要ですが、現段階では難しい状況です。そこで、ススキ草原の手入れと同じように、冬に枯れたオギを刈ることにしました。日当たりが良

くなり、オギの新芽が元気に育ち、冬にオギの枯葉を放置した場所よりも好結果を得ました。夏に高く伸びたオギの間に生えたササを駆除することは難しいので、冬にオギ原を刈った際、ササの切株を土の中まで深く切り込んでみたところ、ササの駆除に効果がありました。



冬のオギ原の作業

○オギ原の調査で分かった意外な事実
カヤネズミの巣の数や分布をモニタリング調査していますが、近年はオギ原よりも、むしろ周辺部のササ原に巣が多いという調査結果になりました。里山の手入れで目の敵？にされがちなササが役立っているというのは意外でしたが、オギ原と隣接して存在することで重要な役割を果たしているのかもしれません。

○オギ原の生態系を守るために
オギ原には、オギとササ以外にも、様々な植物が生えてきます。ノイバラのように棘があって作業の邪魔になる植物もあります。里山の手入れをしていた昔なら、真っ先に切られてしまった植物で

しょうが、花が咲くと実に見事昆虫も多く集まります。伝統的な里山管理にとらわれず、里山の彩りとして、ノイバラを残すという選択肢も考えたいと思います。またオギ原に隣接してアシ原やカヤネズミが生息するササ原もありますから、周辺の環境も含めながら保全方法を考える必要があるようです。さらに、オギ原の管理手法を模索するため、今年刈った場所と昨年刈った場所の比較、オギ原に絡みつくカナムグラの駆除成果の評価などが必要になってきます。そこで、今年から図のようにオギ原を環境別に分割した調査用紙を作成し、作業と同時に調査を行うことになりました。共に作業し、成果を確認し、仲間で語り合い、次の作業方法を考える。そんなことがとても楽しいのです。

久保廣晃



都市計画道路(由比ガ浜関谷線)を歩いてみました

昨年秋の「集い」でも話しましたが、しばらく(50年以上)「休眠中」だった、都市計画道路が見直し作業でむっくり起き上がってきました。「鎌倉市都市計画図」を何度も指でなぞりましたが実感がわきません。そこで実際に都市計画道路を歩いてみましたので感想など記してみたいと思います。(「鎌倉都市計画図」を参照下さい。)

《由比ガ浜関谷線》

全長8、800m

全区間を3つに区分

区間	地図上の番号	所在地	必要性	総合評価
A 区間	① ~②	海岸から法務局	中	存続
B 区間	② ~③	法務局から神明神社前	低	保留
C 区間	③ ~⑤	神明神社前から国道1号線に至る	高	存続

(「必要性」、「総合評価」は市によるもの)

●A区間は①の由比ガ浜海浜公園横の幅広い道路(全長300m)から始まります。

ここから由比ガ浜通りの中間に位置する寸松堂(景観重要建築物)を目指すのですが、対象となる道路がありません。

寸松堂の横の道路(車1台やとすれ違える)を北に上がり、左手に御成中の校舎を見ながら法務局前②に出ます。

●B区間は②法務局横から銭洗弁天をたどる道路となります。舗装されていますが車の擦れ違いがやつの細い道です。

銭洗弁天の手前に参拝者用の駐車場がありますが、そのよこ左側の畑から左右に分かれた源氏山公園の中間地点まで道路が作られるようです。中間点のすぐ右側は世界文化遺産登録対象候補の「化粧坂」があります。

道路はさらに葛原ヶ岡神社の後ろを大きく左にカーブして北鎌倉と梶原を結ぶ道路に出合います。道路を左折して坂道を進むと皆さんご存知の「山ノ内配水池」が右手に見えてきます。山ノ内配水池横の山道はもう「台峯」です。

台峯のピークを過ぎ稜線沿いに散策路をすすむと、やがて左手に北鎌倉女子学園のグラウンドを見ながら同学園の校舎に至る急なコンクリートの坂を下ります。

途中T字路を左折して、台峯の裾野に沿って神明神社まで歩きます③。この地域はバスも通らず古くからの鎌倉が残っている地域です。

●C区間は③神明神社(左折すると山崎小方面)前交差点を直進します。

湘南センチュリー教習所の裏手を進むと天神下交差点に至ります。天神下交差点(モノレールが走る)をさらに直進すると山崎保育園の交差点に出ます。

山崎保育園の交差点から先はやはり該当する道が見当たりません。ともかくフラワーセンター前の跨線橋に至る道なのですが現在は住宅が立ち並んでいます。

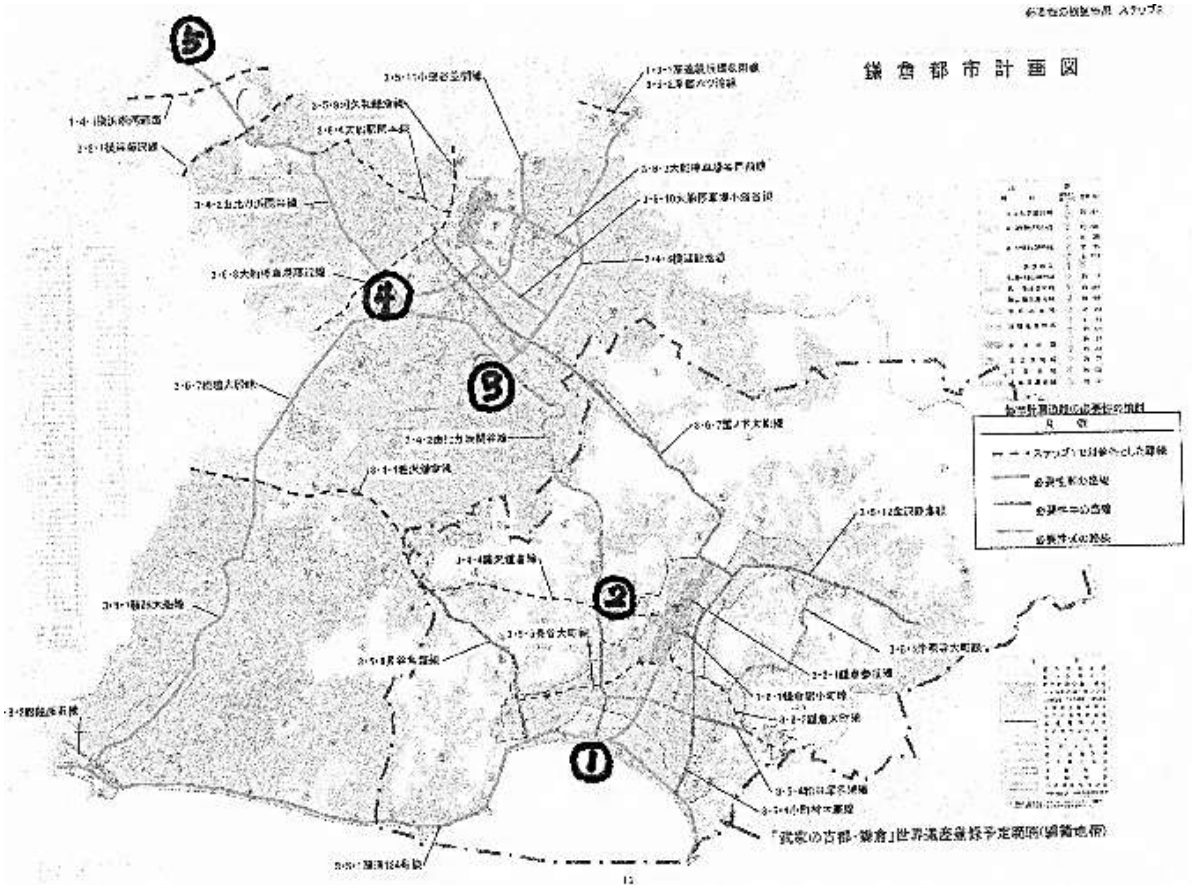
跨線橋④から先はトンネルを2つ超え関谷のICまで立派な道路が出来上がり利用されています。さらに道路は横浜市の影響取交差点付近で国道1号線に接続

します。

以上ですが、A区間は旧鎌倉市内の住宅地です。B区間は途中、台峯緑地の真ん中を9m道路で敷設しようとするものです。台峯はもちろんですが、世界遺産登録を目指す鎌倉市にとって「化粧坂」のすぐそばを道路が通るとあっては大幅なイメージダウンとなるのは明らかです。

6月の登録審査結果が注目されます。基金としては、まずは少しでも多くの市民に都市計画道路の実態を知ってもらうことが当面の課題と考えています。

望月真樹



< 鎌倉都市計画図 >

.....

台峯・点描

.....

2月25日付の「東京新聞 筆洗」欄にこんな記事を見つけました。俳人蕪村はなかなかのグルメだったらしく、食べものの句が146もあるのだそうです。

「その昔鎌倉の海に鮫やなき」「筆洗」子は鎌倉人への優越感もうかがえると言っていますが、そういえば筆者の郷里新潟でもふぐは食卓に上らなかつたようです。でも蕪村は知らなくても鎌倉では相模湾・三浦半島の豊かな海の幸を存分に味わってきたことでしょう。江戸の初鰹だって相模灘沿岸から運ばれたものですから。

台峯では縄文期からの遺物、土器が発掘されていますが、彼らは海産物も食料にしたはずです。以来、歴史の各時代を通して、米・麦・野菜などが耕作されていた戦後暫くまで、人びとは台峯から多くの恵みを受けてきました。鎌倉をとりまく山の一つですから、しばしば戦いの場になり、悲劇を生んでもきました。そして今、特色ある里山として私たち「基金」も多くの市民とともに、大切に次代にひき継ごうとしています。

「基金」は以前に機関紙5冊を発行しています。その5号の表紙を飾ってくれた少年がいました。写真もよく撮れていたのですが、就学前から恒例の山歩きに、父上と一緒によく参加していた彼は、元気なかわいい少年でした。父上が指導しておられたからでしょうが、たとえば観察のためにマシジミを掬っても、水にも

どすときは必ずもとの場所に戻って放すとか、道に落ちている木の実でさえ勝手に拾わないとか、私たちは「モデル坊や」と称していつも感心していました。苺のドロップが好きなんてほおえましいところもありましたが。でも高学年になり、やがて受験期になると、彼も勉強やクラブ活動に忙しくなり、山歩きにも参加できなくなります。一度、すっかり好青年になって現れたことがあり、十年一日のごとく一向に進歩しない私などよりよほど自然にも詳しくなつたらしい彼からナナフシを教わりました。先日、久しぶりに父上が見え、今年は大学受験、その中、又、山歩きにも参加できるかもしれないとのことで、本当にうれしく思いました。生物関係を志望とか、こうして台峯の恵みを次につなげていってくれる若い人が、沢山育ってくれることを期待したいと切に思う昨今です。

同じコースをくり返し歩いていても、その都度、新しく楽しいことが見つかります。みなさんはご存知でしょうか。先日、キクイタダキというかわいい小鳥を始めてみました。

和泉あき

< キクイタダキ >

3月3日のモニタリング(マップ作り)で観察したもの。頭頂部が黄色く、菊花の様なのでその名に負う。この辺りで最小クラスの鳥。北国や高山帯に住み、最近では冬でも鎌倉まで滅多に来ない。杉などの林で生活。

花粉症やら下草が生えないなど評判の悪い杉ではあるが、それなりに必要といえる。

——久保理事談

台峯の周辺 -歴史つれづれ- ⑥

「山の手入れ」で「老人の畑」を耕していると、犬と散歩の人が立ち寄って、向いの円覚寺や右手の東慶寺の方を見晴らししていく。犬の眼にも景色は映っているのだろうか？

漱石に禅の手ほどきをしたことでも知られる釈宗演(本誌 26 号「NMの碑」は彼の筆による)が円覚寺管長を辞し東慶寺の住持となったのは、ZENを広めに渡米するためだった。弟子の鈴木大拙が随伴した。

大拙は熱心な聴衆から質問攻めにあって辟易し、当地の女性は無遠慮で困ると日本への手紙でこぼしていたが、さて帰国すると西洋婦人を帯同している。訝って尋ねると、平然と「ワイフ」と答えたので皆啞然とした、との逸話が残る。

ビアトリスは琵琶子夫人となって円覚寺塔頭の正伝庵に住んだ。禅に傾倒のあまり電燈が引かれる際には寺に相応しくないと反対し、仏の教えにも係らず日本人が動物を大事にしないとて犬猫を拾っては自宅で養った。それが何十匹も放し飼いとなったので、辺りは禅寺らしからぬ雰囲気になったという。

動物の世話はお手伝いの関口この子でした。犬猫はますます増えて正伝庵では飼いきれなくなり、昭和4年夫人はおそらく近代日本では最初の愛護・飼育施設「動物愛護慈悲園」を近くに開設した。

おこのさんは無学ながら才気ある女傑で、「動物愛護、愛護というなら、大根や人参だって生きているのだから喰うな」と揶揄されても全く動ぜず、「犬や猫は呼

べば来る。大根や人参が呼んで来るか！」と切り返した。大拙は、彼女の生き方こそ禅的な生き方かもしれぬ、と称賛した。

朝鮮の禅宗史書として名高い『祖堂集』が大拙の手許から世にでたのも、飼料を買う金がないと夫人から訴えられ、おこのさんに売って歩かせた蔵書の中にあつたためらしい。

宗演の遺志を継いだ大拙が困難な戦時に松ヶ岡文庫を創設する際も、彼女は八面六臂の活躍をした。しかし、この頃慈悲園は廃園に追い込まれたようである。



(写真は犬猫と両婦人。なお、本園に係る文献が見当たらないが、「鎌倉衛生時報」S38/12/10号に、S19まで百頭もの犬が某所で飼われていたとの記事がある。本園のことかもしれない。)

いま東慶寺で夫人は大拙と、おこのさんはその脇に眠っている。朝比奈宗源によるおこのさんの碑文には、「仁愛畜類に及ぶを見る／留め得たり慈悲園主の名」とある。

散歩の犬にも分るのではないか。眼下の地で父祖が二人の女性から慈愛を注がれたことが。

本田隆史

台峯のこの頃



雪の降った日(1/14)翌日の湿地



老人の畑の雪もながく残りました



2月初め 朝の済んだ空の下のハンノキ



そして3月。早くも土筆が。



六国見山からの台峯・老人の畑

会報28号

発行日 2013年3月31日
発行者 特定非営利活動法人
北鎌倉の景観を後世に伝える基金
事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内 704-9
(和泉方) Phone:0467-47-9892
HP www.kitakamakura-daimine-trust.org
写真 市川節子・小田原茂夫・望月眞樹・本田隆史

< 編集後記 > —表紙に寄せて—

雪が積もった1月の台峯では、はしゃぐ大人の姿が見受けられました。こうした子供心は失いたくないものですね。今やすっかり春。ハンノキ林ではセリも緑を増していますが、ウサギらしき食痕がよく見られます。美味しいのでしょうか、人間も食べるくらいですから。野菜になった仲間もありますよ。例えば、パセリ、セロリ。—でも、どちらも本当にセリ科なんです。